

令和6年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

良食味米の用途拡大で雇用を創出し、中山間地農業を未来へつなぐ

○氏名又は名称 有限会社 川口グリーンセンター（代表 白鳥 正文）

○所 在 地 宮城県栗原市

○出 品 財 経営（水稻、スプレー菊）

○受 賞 理 由

・地域の概要

栗原市は宮城県の最北西部に位置し、県土の約11%を占めている。北西部には栗駒山を主峰とする奥羽山脈が縦走し、その支脈は南東に張り出して丘陵地帯を形成している。この丘陵地帯を流れる河川流域や沼の周辺に広がる耕土は県内有数の穀倉地帯となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成13年に有限会社川口グリーンセンターを設立、条件の悪い圃場も引き受けることで地域の信頼を得ていった。現在は、ICTと省力技術の導入による作業効率の向上により金田地区の水田経営約300haのうち79.5haを担う中核的担い手として活動している。令和2年から海外でおむすび販売事業を展開する事業者と連携し、輸出米生産にも取り組んでおり、令和4年は約10tをアメリカへ輸出した。

・受賞者の特色

（1）付加価値を高める販売展開で水稻部門の規模拡大

金田地区は、山間地域のため水が冷たく、また、排水が悪く、転作で大豆等栽培しても生産性が低い地域であり、収量は県平均より低い480kg/10aを目標としている。一方、朝晩の気温の較差、清らかな水を生かして、県内でも有数の良食味米の産地となっている。JGAP認証を取得したことで、さらに「米」の付加価値を高めてきた。現在では、直接販売を積極的に進めており、ネット販売や通信販売を拡大している。

（2）経営を多角化し、雇用の創出

周年就労と年間を通じての収益確保を図るために、水稻育苗ハウスを活用して花き栽培を行っている。また、平成17年に直売所を開設し販売部門の充実を図ってきた。さらに、平成24年に米粉事業部を立ち上げ、米粉パンを製造するとともに、米粉パン生地の全国的なサプライチェーンを構築するFC事業を展開し、いずれも順調に売り上げを伸ばし、水稻部門と並んで経営の柱となっている。

・普及性と今後の発展方向

地域の担い手と連携しながら、農地を預かり規模拡大し、良食味米の新たな需要を増大させていくと共に付加価値を高め適正な価格で取引を行っていく。また、若者の雇用を創出し、利益を地域に還元していくことで地域の賑わいを作り、農業生産を通して地域になくてはならない会社として、地域とともに成長する、次世代も「明るく元気に賑やかな地域社会の創出に貢献して行く」ことを目指している。